

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	唐津市立成和小学校			
-----	-----------	--	--	--

1 前年度 評価結果の概要	・校長のリーダーシップの下、全教職員での共通理解を図り、重点目標を意識した取組を組織的に行うことができた。 ・「思考力・表現力の向上を目指した学びの充実」については、校内研究を中心に、自分の考えや気持ちを言葉や文、図などでかく活動の充実を図った。研究2年目の「分かる段階」を意識し、かく内容の質を高めることや児童同士の交流を通して考えを深めることについて協議を積み重ねることができた。次年度は、思考力を育成する指導法の工夫についての研究が3年目の最終年を迎え、「深める段階」を意識した指導法の工夫を進め、思考力・表現力の向上を目指した学びの充実についてのまとめをする。 ・「不登校対策」については、早期・組織的な対応を継続し、校内の受け入れ体制や外部機関との連携をより一層充実させる。また、児童が教職員に相談しやすい体制づくりや信頼関係の構築に努めていく。 ・「特別支援教育の推進と校内体制の充実」については、校内支援会議を充実させ、保護者との面談や関係機関との連携を図ることができた。次年度も相談体制を維持し、児童や保護者に寄り添った支援を組織的に行っていく。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、行事の精選や簡略化、協働体制や役割分担の明確化により、時間外在校時間の減少に努めていく。			
------------------	---	--	--	--

2 学校教育目標	「ハート」「パワー」「チャレンジ」～わたしらしく あなたらしく～ あたたかく、力強く、自分らしく、目標にチャレンジする成和っ子の育成			
----------	---	--	--	--

3 本年度の重点目標	①思考力・表現力の向上を目指した学びの充実 ②不登校・いじめ・問題行動への早期・組織的な対応 ③特別支援教育の推進と校内支援体制の充実 ④学年チームの連携による協働的な指導と業務の改善			
------------	---	--	--	--

4 重点取組内容・成果指標				
(1) 共通評価項目				主な担当者
重点取組			具体的取組	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○校内研で進める「思考力を育成する指導法の工夫」の授業実践	○「かくこと」に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童86%以上	・自分の考えを自分の「ことば」で表現できるような授業を実践する。 ・貸し出し冊数1人100冊達成者の増加を目指し、図書館教育に力を入れる。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上	・ふれあい道徳や人権集会、道徳に関するアンケートを実施する。 ・職員間による教材や資料の共有化を図る。 ・保護者や地域の方と連携した体験活動を実施する。 ・学校PUSHを行い、救命教育を通して応急手当を身につけ、安全な学校環境を目指す。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめに関して、情報の共有化を図り、迅速で組織的な対応ができている」のアンケート項目に肯定的な回答をした教員90%以上	・担任、副担任で構成される学年チーム制を導入し、情報の共有化および迅速な対応を推進する。また、生徒指導担当を中心とした組織的な対応を行う。 ・未然防止のため、各クラスにおいて、支持的風土のあるあたたかい学級づくりを進める。 ・必要に応じてケース会議を開き、情報の共有化を図り、最善策をとる。 ・心のアンケートを実施する。(年3回) ・夏季休業中に研修会を開き、いじめの定義や覚知・認知の共通理解を図る。	・生活部 (教頭)
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90%以上 ●◎「将来の夢や目標、なりたい自分像を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・一人一人に役割や出番を与えられるような学級活動や児童会活動の工夫や、達成感や自己有用感を感じられるような働きかけをする。 ・成果を確かめるための児童・教師アンケートを実施する。(3学期) ・学校行事や主要な活動において目標設定や振り返りを行い、ファイルに綴っていく。 ・各学年に応じたキャリア教育を年1回は行う。	・特活部
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上	・外遊びの奨励と環境づくりを推進する。 ・体育委員会を中心にスポーツチャレンジの取組を行い、体力向上に努める。	・保体部
	②「望ましい生活習慣の形成」	②毎日朝ごはんの摂取率90%以上、 遅刻なし80%以上、ハンカチ・ティッシュの忘れなし90%以上	・保健だよりで家庭と連携を図りながら、朝ごはんへの啓発を図る。 ・毎日の健康観察・衛生検査とともに指導を行う。 ・保健の授業で指導を行う。	・保体部
	④「安全に関する資質・能力の育成」	④「児童に交通安全への意識や態度が育つよう指導を行っている」のアンケート項目に肯定的な回答をした教員90%以上 ○犯罪被害を防ぐために、講習会や安全集会を実施する。	・年度当初、職員と地域の方(町内会長)で一緒に校区内巡回を行い、通学路や危険個所の確認を行う。 ・自転車の乗り方、道路の渡り方を中心に交通安全指導を行う。 ・外部講師を招いて、1年生に「防犯教室」を実施する。 ・防犯意識を高める「全校安全集会」を実施する。 ・SNSトラブルやインターネット上での犯罪被害を防ぐために、6年生に「情報モラル出前講座」を実施する。	生活部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・繁忙期以外の月を在校時間縮減月間として取り組む。(7月、8月、10月、12月、1月) ・上記月間の時間外在校時間45時間を超えない職員の割合85%以上 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・職員の役割分担を明確にし、学校行事の準備等協力体制を築いて業務の効率化を図る。 ・定時退勤日を設定する。(金曜日) ・目標退勤時刻を行事黒板に提示する。 ・時間外在校時間45時間未満の達成状況を学期末に職員に周知する。 ・学年チーム制を導入し、担任業務を分担し、業務の軽減を図る。	・教頭
●特別支援教育の充実	●特別支援教育の充実	○月に1回程度、特別支援委員会を開き、教員間で情報共有を行い、児童の状況をつかみ、特別支援の充実に努める。 ○特別支援教育に関して保護者や児童への啓発を図る。	・児童が安定した学校生活を送ることができるように、担任や生活支援員との情報共有を密にし、児童や保護者の願いに寄り添った支援を行う。 ・学校説明会や教育講演会、学校だより、全校集会を通して保護者や児童への啓発を行う。	・特支援教育コーディネーター

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
重点取組			具体的取組	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○不登校対策・支援	○登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的対応の充実	○「登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応ができている」と回答した教員90%以上	・管理職や教育相談主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、担任等でケース会議を開き、組織的対応を行う。 ・SCやSSW、青少年支援センター等と連携を図り、児童や保護者に寄り添った対応を行う。 ・学校説明会、教育講演会、学校だよりを通じて、保護者への啓発を行う。	・教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・			
--------------------	--	--	--	--